

労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2022年3月17日発行

No. 586号 (第53期 11号)

〒454-0055

名古屋市 中川区 十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

若駒山岳会 冬山合宿 ハヶ岳



今期の合宿はメンバーの仕事などの都合により、前半後半の2回に分けて行いました。以下の報告は前半のハヶ岳の報告です。

12月28日夜から30日まで、ハヶ岳へ冬合宿に行ってきました。今回はハヶ岳の赤岳から硫黄岳まで周遊することで、冬山実践の基礎を身につけるべく、合宿に取り組みました。

29日早朝6時に美濃戸口に到着。さすが年末のハヶ岳。すでに結構な量の車が停まっています。この日はベースとなる行者小屋までの道のりです。ところどころ凍結した箇所はあるものの、トレースもばっちりついて、10時前には行者小屋に着きました。早朝出たのは、テント場争奪戦に負けなためです。おかげで、いい場所をゲット出来て設営しました。

(次頁につづく)

《目次》	若駒山岳会 冬山合宿 ハヶ岳	1
	労山山岳事故対策基金が一部改定されました	2
理事会	第53期 第13回 理事会議事録	5
組織部	加盟団体毎会員数の動向	7
	第35回全国総会参加報告	8
	労山愛知県連主催公開講座のお知らせ	11
	カレンダー	12

(表紙からのつづき)

テント設営したら、普段なら水作りに励むところですが、行者小屋は沢筋から水を引いてくれているので助かりました。夕方になり食事を作りました。1回戦、2回戦で味が違う鍋でおなか一杯になりました。



明日の予報は南岸に低気圧が通る予報。翌日の作戦を立てて眠りにつきました。就寝後、夜半から風が出始め、テントをたたく雪の音がしました。

30日、予想どおり朝から視界不良の雪の天気。ヘッドランプをつけて6時過ぎに出発しました。文三郎尾根を登っていくと主稜を目指すパーティーがいましたが、悪天で断念したようです。我々は、周回を断念して赤岳ピストンに切り替えました。視界も悪く、風でトレースも消えてしまうので、往路も復路も慎重に行く必要があります。



風はありましたが、幸い気温はそれほど低くなく助かりました。

この日は終日天気が悪かったです。八ヶ岳の西面はアプローチも近く、わりと気軽に入山できるのですが、一般ルートでも、低温で強風にあたり、岩稜帯での事故も多く、油断は禁物です。

当初の計画通りにはいきませんでした。無事に下山出来ました。今後の山行など、いろいろ思いながら帰路に着きました。

メンバーの感想としては、

- ・縦走が出来なかったことは残念だが、冬の赤岳に登れてよかった。
- ・久しぶりに使用した60Lザックが体に合っていなかったの見直しが必要。
- ・行動時にまつ毛が凍って不快になるので、対策が必要。
- ・事前の2回のトレーニング山行で装備等を見直す機会があったので良かった。
- ・風、雪等の天気が良くない中での緊張感のある山行が経験できた。
- ・テント生活に慣れたメンバーだったので、何も言わなくても行動出来、ストレスがなく良かった。

なお、後半は1月8日～10日の予定で、越百山ピストンを計画しましたが、初日にメンバーが体調不良となり、途中で下山しました。合宿に向け、自分の体調をモニタリングして、足りないところは補う必要があるということが課題となりました。



労山山岳事故対策基金が一部改定されました

2月19日(土)～20日(日)に開催されました第35回全国総会で「労山山岳事故対策基金(労山基金)」が一部改定されました。主な改定内容は、以下の項目です。

1. 救助捜索交付の増額

本制度をさらに魅力あるものとするため、初年度交付倍率を300倍→**400倍**に、最大交付倍率を400倍→**500倍**に引き上げとなりました。

2. 入通院日数の短縮

医療の高度化などにより、医療機関の入院日数が従来と比較して短縮傾向にあるので、交付対象の入通院の日数が最短入院3日→**2日**、通院3日→**1日**となりました。

一方で、会員の高齢化に伴い入通院（受傷後のリハビリを含む）が長引く傾向にあり、最大日数（入院210日／通院50日）は据え置くことになっています。

3. 海外登山の規定及び交付対象者の明確化

海外登山（トレッキングを含む）中の事故に対して交付を必要とする場合、登山計画書を事前に全国連盟海外委員会へ提出することとなっています。また、労山基金加入から1年以上経過した会員が交付対象です。この規定は従来どおりです。

トレッキング以外では、5000m以上の高所登山と**すべてのバリエーション登山等**を対象とすることが明確化されました。

4. 無事故報酬金制度の廃止

会・クラブの無事故に向けた長年の努力を顕彰するとともに更なる安全山行への取り組みを促す制度として、10年間交付申請のない団体に対して、無事故報酬金を交付してきました。全国基金担当者会議等で「会員数の違い（数人の会も100人以上の会もある）等により、公平な評価ではない」等の指摘がされ、廃止に賛成する意見が多数を占める結果を受け、**廃止**となりました。

（参考）労山基金と各種山岳保険との比較（登山時報 2022年2月号より）

労山基金と他の山岳保険との補償内容を比較したのが下表（単位：円）である。

1. 日本山岳救助機構（jRO）との比較

JRO（ジロー）と労山基金「個人」とを比べると、補償対象が違うことがわかる。jROは救助捜索に特化した山岳保険であり、入通院、死亡・後遺障害、海外登山には適用されない。jROの保険料が廉価なのは、1年間で会員に支払った救助捜索費用の合計を会員数で割った金額（事後分担金）を請求する方式のためだ。現在、公的なヘリ救助が一般的となっているので、救助捜索費は少額になっている。

一方、労山基金「団体」も救助捜索だけに特化している。例えば、5口（寄付金1万円）で300～400万円の救助捜索費用が補償される。会の規模に条件はない。100人所属の会の場合、一人当たりの寄付金は100円相当となる。つまり、個人が労山基金に加入していなくても、会・クラブが加入していれば、救助捜索費用が補償される。

2. YAMAP 保険とモンベル保険との比較

比較するために、掛け金が労山基金「個人」5口と同額レベルのタイプの保険を見ていく。ここではGPS検索でお馴染みのYAMAPレスキュー保険と労山基金「個人」5口を比較してみよう。救助捜索費用は300万円と労山基金「個人」5口より有利であるが、労山基金は継続加入11年目から250万円になる。入通院はYAMAPのこの保険では補償対象としていないため、圧倒的に労山基金が有利である。決定的な違いは労山基金「個人」が海外山行を対象にしているのに対して、YAMAPの保険は国内山行のみを対象にしている。

一方、モンベルの保険には、野外活動（ハイキング）と山岳登攀を対象に安心プラン、スタンダードプランシンプルプランの3プラン合計16種類のタイプがあり、補償内容が異なる。保険料（年額）も7万円から3千円までと幅がある。

	労山基金			日本山岳救助機構 JRO (山岳遭難対策制度)	YAMAP登山保険 (レスキュー保険)	モンベル山岳保険 (シンプルプラン F114)
	ココヘリ+ 「個人」5口	「個人」5口	「団体」5口			
救助捜索費用	※ 1,500,000~ 5,000,000	※1 1,500,000~ 2,000,000	3,000,000~ 4,000,000	5,500,000	3,000,000 (免責30,000)	1,000,000 +追加費用300,000
入院費用	840,000	840,000	—	—	—	—
通院費用	100,000	100,000	—	—	—	—
遺体搬送費	—	—	—	300,000	—	—
死亡・後遺障害	1,000,000	1,000,000	—	—	—	50,000
救護者費用	100,000	100,000	100,000	300,000	—	5,000,000
携行品損害	☆ 30,000	—	—	—	—	—
個人賠償責任	☆ 1億	—	—	—	—	1億
海外登山 救助費用	1,500,000~ 2,000,000	1,500,000~ 2,000,000	—	—	—	—
年費用・保険料	9,015 (労山基金5,000+ ココヘリ4,015)	5,000	10,000 一人あたり100(会 員100人の団体の 場合)、500(会 員20人の団体の 場合)など	2,200+α	4,800	6,340
備考	救助捜索費用は、初年度は寄付金300倍まで補償。継続1年毎に10倍加算され、継続11年目以降は400倍まで。救護者費用は、駆けつけ交通費の位置付け。			α(事後分担金)の目安は300~700円。救助捜索機関への謝礼費として1機関につき1万円限度の実費支給(10機関まで)。初年度は別途、入金金2,200円が必要。	保険料月払い方式「30日プラン」もあり。入通院を補償する「レスキュー保険プラスケガ補償セット」年額8,800円や携行品損害の補償も付加された保険もある。	モンベル山岳保険には3プラン・合計9のコースがある。2021年10月から国内における疾病や悪天候、噴火が原因による遭難も補償対象にした。ここに挙げたのは補償金額と保険料がもっとも安いコース。
	労山基金は1口1,000円。いかなる原因も問わずに、山行中の遭難であれば全部救済する。入院費は210日まで(4000円/日)、通院費は50日まで(2000円/日)。事故日から1年以内で、上限は入院210日まで・通院50日まで、 <u>3日以上の上通院について1日目から交付。 ※2</u> ※ココヘリに加入している場合、ココヘリサービス対象に限り、労山基金の寄付金1,000倍まで。☆ココヘリ付帯補償。					
※1:「12,000,000~2,500,000」に改定 ※2:「入院は2日目から、通院は1日」に改定						

第53期 第13回 理事会議事録

2022年2月17日(木) 19時30分～21時30分

出席者：廣田(同志会) 佐藤(あつた) 吉川(同志会) 河村(春日井) 安藤(くらら) 山本(みどり) 小野塚(犬山)

Zoom：松本(東三河) 井川(ふわく) 榊原(ありんこ) 後藤(じねんじょ) 倉重(犬山)

司会＝山本 議事録＝安藤 次回司会＝吉田 次回議事録＝

報告事項

事務局

- ・ 労山愛知第585号の発行は2/17配信
- ・ 第54期総会日程 5/8会場は刈谷市産業振興センター604号室予定
招集状は佐藤さんが印鑑を捺印し、PDF化して吉川さんに送信
- ・ 総会の準備
第54期 総会議長：半田ファミリー(午前)、山の会「くらら」(午後) 総会書記：犬山
マップ
- ・ 労山愛知第586号 締切3/11
全国総会は吉川さんが出席、Zoomは榊原さんと松本さん
- ・ 労山基金まとめの関係報告は榊原さん、全体の報告は松本さん、議案書報告は吉川さん
全国総会の議案書は吉川さんが各理事に転送
- ・ 若駒樋江井さんの冬山合宿模様の記事を次回号のトップで載せる(榊原さん了解)

女性部：部会を3/10開催で議事録を載せる

自然保護部：部会を3/18に予定で4月号に議事録を載せる予定

財政：登山学校(15名参加)の収支決算が出てないので、決算ができない

- ・ 登山学校の会計報告はあつたの清水さんが今計算している、会計報告が出来たら、3/17理事会で協議する(理由は登山学校の会計担当者が会計報告をしていない)
- 労山安全対策基金補助金(登山学校の補助)は登山学校の会計報告後にする。
- ・ 収入で利息3円の計上忘れと東海山岳会の事務所家賃分担金は第53期決算では受取は9,600円のみで、残りは1月に振り込まれたので、第54期の受け取りにする
 - ・ 決算の3数字後の項目を再表示、井川さんが3の項目を確認して決算書を再作成
 - ・ 監査は佐藤さんが若駒の蜂須賀さんと東三河山ぽ会の渡辺さんで日程調整して、監査日を決める、井川さんは2/25以降ならOKで、但し3/2(水)はふわくの例会です

組織部：入会の動機と退会理由と加盟団体毎会員数の動向 報告1月末

- ・ 2. 入会の動機(経緯)と退会理由は、入会の動機で「山の仲間が欲しい」「登山技術・知識を学びたい」「登山の幅・ジャンルを拡げたい」「新しい山・百名山等に行きたい」「その他」を調査項目新設し、従来の入会の動機(経緯⇒キッカケ)に変更し、新様式の実施は 2022年3月分からとします
 - ・ 加盟団体毎会員数の動向報告 2022年1月は886名、2021年3月885名に対して1名増
- 一般登山講座
- ・ 講座の申込状況は11名
 - ・ 交流山行は3/12(土)百ヶヶ峰 参加予定者は20名
 - ・ 実技山行のCL/SLを募集しています

・講座山行の実施は、地図読み・危険個所の通過は教える際に三密は避けられないので、コロナ禍で普通の山行になるかもしれない

- ・コロナ禍対策の説明を受講生に送信して、講座を実施する
- ・実技山行のリーダーマニュアルを作成して、CL・SLに周知する

一般事項はハイキングセカンドステップに示されているので、これを周知する

議案書

・現在入会と退会がほぼ同数で、退会理由の改善と高齢者の退会を防ぐ会運営などで、会員数のプラス10%目標が良いのではないかと思います

その他

非接触型体温計を2個（電池を含む）早急に吉川さん購入（他の講座でも使用する）

教育部：特にありません

遭対対策部：4/1部会を予定

「参考」今月の山溪に音声案内のビーコン（8カ国語で日本語対応はしていない）オルトボックス社製の記事が載っていた

総会議案

第54期総会議案 第4号議案 会計処理規定（案）

第11条 全国集會等への役員派遣に伴う仮払いは、事前に理事会の承認を要する。

仮払いの精算処理については2週間以内に行う事。

2. 会計年度を跨いでの仮払い等は行わない。

第8条 会計帳簿類及び閉鎖した帳簿類の保存期間はそれぞれ次の期間とする。

次の帳簿類は5年。現金出納帳、科目別元帳、特別家計簿、積立会計簿。

次の台帳類は5年。器具・備品台帳

次の伝票類は5年。入金、出金伝票、振替伝票、出金証拠書類。

（4）その他、必要書類、5年。

第12条 登山学校会計、雪山安全講習会会計、一般向け登山講座会計等諸講習会の会計は、受講生の確定した時点で収支見通しを速やかに理事会に報告すること。また諸講習会の終了した後速やかに収支決算を理事会に報告すること。

2. 連盟員より参加費等を徴収して実施する専門部等の行事は、終了後収支報告を速やかに理事会に報告すること。

第6条 財政は、四半期毎に一般会計及び特別会計、積立会計のそれぞれについて、収支状況の内訳書を作成し、理事会に報告する事。

2. 期末には、一般会計及び特別会計、積立会計のそれぞれの収支決算書及び財産内訳表、繰越金内訳表などの決算書類を作成し、理事会へ報告すると共に会計監査の監査を受ける。

3. 決算報告書は監査報告と共に、総会の承認を受けること。

細則-1 理事会の決議ある場合を除いて、連盟費等による飲食は行わない。

第5号議案 役員に選出に関する規定（案）

第3条 全ての連盟員は、役員に立候補する権利を有する。ただし、連盟への加入は団体単位であることから、所属する加盟団体の推薦を前提とする。

第10条 この規程の改廃は、総会での2/3の賛成を必要とする。

2つの規定提案を上記の順で、理事会で慎重に協議しました

追加項目 3/19（土）藤原自然科学館「早春の花を見る会」に佐藤さんが参加予定

組織部 加盟団体毎会員数の動向

2022年2月28日現在

※ご記入ください

愛知県勤労者山岳連盟
加盟団体毎会員数の動向

No	加盟団体	2022年3月度(3月末現在)						2022年1月度(1月末現在)						2022年2月度(2月末現在)						2021年4月~2022年3月、年間						前 月 比 増 減							
		入会		退会		在籍会員数		入会		退会		在籍会員数		入会		退会		在籍会員数		入会		退会		在籍会員数									
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計				
1	あつた勤労者山岳会	0	0	0	0	0	35	17	52	0	0	0	0	0	0	0	32	16	48	1	2	4	2	6	32	16	48	-4	0				
2	アリス山の会	0	0	0	0	0	2	4	6	0	0	0	0	0	0	0	2	4	6	0	0	0	0	0	2	4	6	0	0				
3	犬山勤労者山の会マップ	0	0	0	1	2	3	21	30	51	1	0	0	0	0	0	23	33	56	4	3	7	2	0	2	23	33	56	5	0			
4	おやこ山の会	0	0	0	0	0	2	3	5	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5	0	0	0	0	0	2	3	5	0	0				
5	春日井峠の会	0	0	0	1	2	21	22	43	0	0	0	0	0	0	0	22	26	48	1	4	5	0	0	22	26	48	5	0				
6	かわせみ山楽会	0	0	0	0	0	10	7	17	0	0	0	3	0	3	6	6	12	0	0	0	4	1	5	6	6	12	-5	0				
7	じねんじょ山の会	0	0	0	0	0	22	13	35	0	0	0	0	0	0	25	19	44	0	0	0	2	2	25	17	42	42	7	-2				
8	スルジエ山の会	0	0	0	2	2	16	14	30	0	1	1	2	3	15	17	32	1	0	1	0	1	0	1	16	16	32	2	0				
9	ちんぐるま	0	0	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	5	0	5	0	5	0	0	0	0	0	5	0	5	0	0				
10	東海山岳会	0	0	0	2	1	3	20	5	25	0	0	0	0	0	20	5	25	0	0	0	0	0	0	20	5	25	0	0				
11	名古屋ありんこ山岳会	0	0	0	0	0	18	13	31	1	0	1	0	0	0	19	12	31	0	0	0	1	2	3	18	10	28	10	28	-3			
12	名古屋ASC	0	0	0	1	1	15	5	20	0	0	0	0	0	16	6	22	1	0	1	2	0	2	15	6	21	6	21	1	-1			
13	名古屋山岳同好会	0	0	0	2	1	3	65	36	101	0	1	1	3	1	4	64	39	103	0	0	0	1	2	63	38	101	63	38	101	0	-2	
14	名古屋山歩会	0	0	0	0	0	11	7	18	0	0	0	0	0	11	7	18	0	0	0	0	0	0	0	11	7	18	0	0	0			
15	半田ファミリー山の会	0	0	0	0	1	30	38	68	0	0	0	0	0	28	35	63	0	0	0	0	0	0	2	4	4	5	9	28	35	63	-5	0
16	東三河山歩会	0	1	1	0	0	68	85	153	0	0	0	1	0	1	73	81	154	0	0	0	0	3	12	15	73	81	154	1	0			
17	低い山を歩む会	0	0	0	0	0	8	4	12	0	0	0	0	0	8	4	12	0	0	0	0	0	0	0	8	4	12	0	0	0			
18	ふわく山の会	0	0	0	0	0	33	46	79	0	0	0	0	0	31	34	65	0	0	0	0	0	1	5	6	13	19	31	34	65	-14	0	
19	みどり山の会	0	0	0	1	0	1	9	26	35	0	0	0	1	1	7	25	32	0	0	0	0	0	0	1	3	4	7	25	32	-3	0	
20	山の会「くらら」	0	0	0	0	1	37	34	71	0	0	0	3	1	4	40	33	73	0	0	0	0	0	2	6	40	33	73	2	0			
21	若駒山岳会	1	0	1	0	0	18	10	28	0	0	0	0	0	18	14	32	0	0	0	0	0	0	1	2	18	14	32	4	0			
合計		1	1	2	7	10	17	466	419	885	2	2	4	11	5	16	467	419	886	2	0	2	4	6	10	465	413	878	413	878	-7	-8	

第 35 回全国総会参加報告

2022 年 2 月

2 月 19 日(土)～20 日(日)東京都府中市のホテルコンチネンタル府中及びオンライン配信で開催された第 35 回全国総会に、松本副会長、吉川事務局長、榊原理事の各代議員で参加してきました。代議員は北海道から鹿児島まで、23 名が会場参加、オンラインでは 28 名弱が参加しました。委任状 24 名、計 75 名。



議案は次のとおりでした。

- (第 1 号議案) 第 34 期下期の活動総括と第 35 期上期の活動方針
- (第 2 号議案) 第 34 期下期の財政活動総括と第 35 期上期の財政方針、予算の策定
- (第 3 号議案) 日本勤労者山岳連盟の規約・規程の一部変更について
- (第 4 号議案) 労山事故対策基金規定の一部改訂について
- (第 5 号議案) 全国役員を選出、その他

また、今総会の主な目的と主要な課題は次のとおりでした。

- (1) コロナ後の登山界での、組織の強化と拡大を目指す活動について
- (2) 遭難事故を減らす安全登山教育の充実について
- (3) 大規模開発から山岳自然を守る活動について
- (4) 平和な社会で、登山文化を発展させる取り組みについて

今回の総会の特徴としては新型コロナ感染の対策として、会場以外にオンライン配信による参加を認めたことです。オンラインであっても、あらかじめ申し込みが必要ですが会場での手上げと同じように発言が出来ることや議案の採決もオンラインによって行われました。初めての試みであった為か進行に時間を要する場面もありましたが、全国からの代表者の意見を反映できる機会となったと思います。

議論の中で機関紙『登山時報』について話し合いが行われました。

- ・現在購読数の減少が続き昨年 10 月には 2000 部を切る状態となっている。
- ・コロナ禍で会の月例会(定例会)が行われず『時報』がタイムリーに会員の手が届く手段が失われた事などがその要因の一つと考えられる。

意見では「紙媒体を辞め、電子媒体で送信し購読できる体制にした方が良いのではないか」、「内容を充実させる事が購読数増加のカギである」との意見や「機関紙であるならば会費の中で会員に無料で配るべきではないか」など色々な意見が出ました。

現在『登山時報』は購読料金前払いとなっていることから 2022 年 12 月まで発行する必要がありますが、以後については理事会のもと「機関紙・紙媒体発行の検討委員会(仮)」を発足させて具体的な検討をしていく事となりました。感

想ですが現在愛知県で採用されている紙と電子媒体による『労山愛知』のようなハイブリッド方式を採用すればと思います。

その他にも各県が抱える課題や現在の状況などが



代表者により報告されました。

採択では各議案が賛成多数で可決・承認されました。

全国連盟の新体制は愛知より吉川理事 が新たに選出されました。

2022年2月10日(木) (文責：松本)

全国総会 質疑等 報告

「権利としての登山」を掲げて、新しい登山文化を創り出そう！

上記は今回の総会スローガン。議案の各号と総会の目的・課題は別稿の通りです。

佐々木会長の挨拶では、(概要)

コロナ禍の中での山行自粛の下、事故一報で見ると若干減で推移している。死亡・行方不明者は2021年4件、2022年3件となっている。会長の呼びかけにより亡くなられた方々に対して黙とうを捧げました。

全国連盟は、一昨年60周年を迎えることができ、組織強化と安全教育の強化、事故を減らすための活動に力を入れている。

理事会からの議案の説明を受けての質疑では

Q：第3号議案 規約改定提案の第19条に“3 役員は、役員として知りえた個人情報および全国連盟が公開していない重要な情報を漏らしてはならない。”を提案しているが、この重要な個人情報とは？

A：山岳事故に関して個人情報は公開しないこととしているので、こうした事例をいう。

Q：地方連盟で81名の連盟員が減少している。連盟費を下げたい。労山に入っていないなくても山行に行ける、ということもある。こうした地方連盟が財政的に困難となっている時に、2022年予算編成方針で「財政安定積立金」として300万円積み増しするのはなじまない。

A：全国的に連盟員が減っているなかで地方連盟が財政的に困難になっているのは承知している。

コロナ禍により従前に比べて活動量も減っている。全国としては財政的に余裕のある時に積み立てを行っていききたい。他の山岳団体は軒並みコロナ禍により事務所を閉めている中で、労山は事務所を開いて、活動を継続してきた。

登山時報について、

Q：登山時報について経営的には破綻しているのではないか。メールニュースや労山ニュースと集約したらどうか。登山時報の見直しの話は以前から出ているのであって、タイムスケジュールを出すべきだ。

Q：登山時報なのか情報誌なのか。読みたいという人は10%ほどしかない。

Q：生協や労働組合は組合費にニュースなどの費用は含まれている。電子媒体では考えることはできない。

A：メールニュース・労山ニュースは連盟費に含まれているが、登山時報は有料である。“電子媒体で良い、”という意見もあり、名称は検討される。12月までは先払いの費用を受けているので、今年中に切替の準備をしたい。登山時報は廃止となるだろう。

Q：福岡では趣意書の学習は行っている。1960年に作られ1978年に現在の趣意書が作られた。労山の魅力を伝える趣意書を作ってもらいたい。

A：現在の趣意書は読んですぐに理解できるものにしていきたい。必要があれば特別の委員会を作って取り組んでいきたい。

Q：女性委員会の再編の経緯について報告して欲しい。

A：各理事には経緯を詳しく説明する文書を渡している。委員会についてはそれに相応しい責任者が見つからなかった、ということです。

Q：早期に解決すべきだ。

Q：トレランにより登山道が壊されている事例がある。労山会員がトレランに参加している場合もある。千葉ではトレランは入山禁止になった事例もある。房総の山で全国大会を開催しようという例もある。トレランで事故が起きた場合労山基金の対象となるのか。

A：危険な事例もあるが、トレランの大会は労山基金の対象とならない。大会の主催者の責任となる。トレランの練習で山に入っていて事故になった場合、山行計画書が出されていれば給付の対象となる。谷川岳でトレラン大会が開催されようとした際、2010年頃山岳団体連名で意見書を谷川町に提出した。谷川岳には特別保護区や危険箇所もある。結果的に谷川岳のトレラン大会は中止となった。危険なもの、自然破壊につながるようなトレラン大会は反対する姿勢は持っている。

Q：登山学校担当者会議が開かれているが、冬山用の教育活動の担当者会議を開催すべきではないか。

A：検討する。

A：労山として山岳遭難に対応する“山岳保安庁“のようなものを作れと要望はしてきた。

山岳遭難に対する救助活動はほとんど公的ヘリによるピックアップとなっている。ほとんどの都道府県にヘリが配されている。警察の救助活動以上のレベルの事故に対しては、二十遭難の恐れがある場合には一般の登山者には救助活動にでるな、と言われる。ココヘリ捜索には100名以上が登録されていて、過去1件捜索に出ている。

A：議案書のPDF配布については、ホームページにアップする。2021年の評議員会についてはアップしている。

討議のまとめの報告、

労山運動を前進させるための積極的な発言がありました。

遭難対策関係の発言は少なかった。コロナ禍のなかでも事故は起きており、緊急アピールを出すことを検討している。

登山時報については多くの意見があった。発行部数が伸びていない。最大の時は5000部の発行部数があり、自力発行できていた。2013年組織基本問題調査会を作り組織、遭難対策などの小委員会を作り検討してきた。2015年に最終答申が出され、5000部回復を目指して頑張ってきた。各地方連盟の総会などでは購読を訴えてきた。

女性委員会については適任者がいなかった。規約では責任者は全国連盟役員でなければならない。アンケートは今後の活動の参考にしていきたい。

理事長より、以上のまとめの報告を受けて、採決の結果各議案について承認されました。

(第5議案) 全国役員の選出

今回選出された役員は、会長：浦添嘉徳(東京)、副会長：今村正一(鹿児島)・渡邊健治(岩手)、理事長：川嶋高志(東京)、副理事長：石川昌(千葉)・臼井邦徳(東京)・久保典子(埼玉)・今野善伸(栃木)、事務局長：小池藍(東京)、理事は青森から福岡まで計20名(欠員4名)です。

その他、総会運営について、

総会の運営では、WEBでは調整に手間取った他は概ね順調に行われた。

議事の進行では、

- ①発言通告用紙に質問欄と討議の欄が設けられているが、実際そのような議事進行はされておらず、その必要があるのかどうかわからなかった。
- ②議事の冒頭で「発言は5分以内、同じ人の再質問は控えるように」という趣旨の説明があっ

たが、「発言は5分以内」は兎も角、発言を制限されるような印象を受けた。再質問は止むを得ないことで、適切ではなかったと思う。

- ③議長が裁決の際に3号議案と4号議案と一緒に採決するかのように言ったり、3号議案の採決の必要数を「過半数」と言い間違えたり、不手際があった。
- ④以前副理事長などを歴任された方が総会の終りに発言を求めて制止されるということがあった。事前の打ち合わせができていなかったとみられる。——など感じた。（文責：吉川）

労山愛知県連主催公開講座 山の自然に親しむ

「愛知県東部設楽地方の山と大地の成り立ち ー大断層と火山活動ー」

自分たちが慣れ親しんでいる（登っている）山々の成り立ち（歴史）を学ぶことは、今後の登山を通じた自然観察等に役立つと、公開講座を実施しますので、会員だけでなく、友人等の一般の方も含めて、誘い合って、奮って参加して下さい。

日 時： 6月 4日（土）13時～15時

場 所：愛知県勤労者山岳連盟事務所

参加費：500円

申込み：各会の県連理事もしくは組織担当の方を通じて、県連組織部（吉川）まで

講演者：名古屋大学大学院環境研究科教授 竹内 誠 先生

【講演の内容】



日本の地層や岩石はもともとアジア大陸の縁で形成されましたが、1500万年前に大陸から離れ、日本海と日本列島が形成されました。その時、日本列島は伊豆諸島と衝突するという大イベントが発生しました。その影響は愛知県東部の地質にも及んでいます。愛知県東部の山々をつくる地質から、当時のイベントについて考えましょう。

基礎編では山岳地域の地質調査、これまで調査・研究対象とされてきた北アルプスを例として、地質調査の方法や山岳地域の地質情報を得る方法を学びます。

【編集後記】先々月号の続きですが、まれに見る大雪だった鈴鹿の滋賀県側、紅葉尾の里は結局3ヶ月間積雪が無くならず、3月12日ようやく0cmになりました。大君ヶ畑はまだ今でも50cmの雪が残っています。地元の人もこんなことは記憶にないとのこと。今年の大雪の原因の一つは、日本海の海面水温が高かったことにあるそうで、意外にもこれも温暖化の表れなんだそうです。（事務局 井土）

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com

Schedule 2022 (案)

4月			5月			6月		
1	金	遭対担当者会議①	1	日		1	水	
2	土		2	月		2	木	理事会②
3	日	登山学校理論 一般向け登山講座実技①	3	火		3	金	遭対担当者会議②
4	月	登山学校理論	4	水		4	土	一般向登山講座⑦⑧
5	火	清掃登山①	5	木		5	日	清掃登山
6	水		6	金		6	月	確保技術(机上)
7	木	組織担当者会議② 女性部会①	7	土		7	火	清掃登山⑥
8	金	春山合宿連絡会議	8	日	第54期総会	8	水	
9	土	一般向け登山講座③	9	月	登山学校理論	9	木	組織担当者会議② 女性部会②
10	日	一般向け登山講座実技②	10	火	清掃登山③	10	金	
11	月	登山学校理論	11	水		11	土	
12	火	清掃登山②	12	木	組織担当者会議① 女性部会①	12	日	登山学校 C
13	水		13	金	春山合宿報告会議	13	月	無雪期救助(机上)
14	木	理事会⑮	14	土		14	火	
15	金		15	日	一般向け登山講座実技② 登山学校 C	15	水	
16	土	登山学校 MC	16	月	登山学校理論	16	木	理事会③
17	日		17	火		17	金	
18	月	登山学校理論	18	水		18	土	
19	火		19	木	理事会①	19	日	登山学校 MC
20	水		20	金		20	月	登山学校理論
21	木		21	土	一般向登山講座⑥ 登山学校 M	21	火	
22	金		22	日	登山学校 M	22	水	
23	土	一般向登山講座④⑤ 登山学校 M	23	月	登山学校理論	23	木	教育担当者会議②
24	日	登山学校 C	24	火	清掃登山④	24	金	
25	月	登山学校理論	25	水		25	土	救急救命法
26	火		26	木	教育担当者会議①	26	日	登山学校 MC
27	水		27	金		27	月	登山学校理論
28	木	理事会⑯	28	土		28	火	
29	金		29	日	登山学校 C	29	水	
30	土		30	月	登山学校理論	30	木	
			31	火	清掃登山⑤			